

令和 7 年度通常総会は、6 月 11 日千葉県の幕張メッセにて開催されました。総会には代議員 747 名の出席と一般参加者 1,310 名が参加し、役員選挙、前年度事業報告および決算監査報告、本年度の重点政策・重点事業・事業計画が協議・報告され、議決事項はいずれも承認されました。

開会式では、千葉県看護協会^{てらぐけいこ}寺口恵子会長より歓迎の言葉が述べられ、次いで千葉県知事や市長より祝辞をいただきました。日本看護協会^{たかはしひろえ}高橋弘枝会長は、開会のあいさつで、新たに公表された「看護の将来ビジョン 2040」について述べられました。現役世代の激減とさらなる高齢化が大きな社会課題となる 2040 年に向け、増え続ける医療・介護ニーズに看護が応えていくには、看護職一人ひとりのキャリアと研鑽を支え、看護の質の向上を図るとともに、その力を十分に発揮できる働きやすい環境づくりをさらに推進していく必要があります。看護職のウェルビーイングの重要性を示されました。「看護職同士が手を携え、ともに考え、ウェルビーイングの向上を目指して力を合わせてまいりましょう」と力強く呼びかけられました。そして、社会のすがたが大きく変わっていく中で、ただ変化に流されるのではなく、あるべき看護のすがたを見据え、より質の高い看護を提供するために看護が進むべき方向性、果たすべき役割をしっかりと打ち出されました。今後、大きく広がる看護への期待に応え、その役割を果たすため、今日からは新ビジョンのもと、人々のいのちと暮らし、尊厳を守り支える看護の実現を目指してまいりましょうと述べられました。

次いで、多年にわたり看護業務に献身し、顕著な功績のあったと認められた人を表彰する「日本看護協会長表彰」があり、133 名の方が受賞されました。和歌山県からは、長年、助産師の養成に携わり人材育成にご尽力された^{いしもとちず}石本千珠さまが受賞されました。

第一号議案は「名誉会員の推薦」の 18 名が承認され、第二号議案の「改選役員および推薦委員の選出」では、選挙管理委員と候補者の紹介後、投票が実施されました。

報告事項においては、執行部より令和 6 年度事業報告と令和 6 年度決算報告及び監査報告がありました。続いて令和 7 年度重点政策として、1.全世代の健康を支える看護機能の強化、2.専門職としてのキャリア継続の支援、3.地域における健康と療養を支える看護職の裁量発揮、4.地域の健康危機管理体制の構築、この 4 点が挙げられました。重点課題として、准看護師養成所の廃止、看護師基礎教育の 4 年制化、ナースプラクティショナー（仮称）制度の構築、この 3 点が挙げられました。2025 年度は、新たなビジョンを公表し、その周知を進めることとし、今年度に限っては 2024 年度の重点政策と重点課題も併せて 1 年間延長、継続した取り組みを進めることが示されました。これらについて、会場からは、時間を超過するほど多くの質疑があり、具体的な方策や所見を求める声が上がりました。認定看護管理者の養成推進、看護補助者の量と質の確保、災害の受援体制の整備、医療 DX の推進（電子カルテの導入の加速化）、訪問看護におけるカスタマーハラスメント、外来での療養支援における看護機能の強化、看多機の推進、ナースプラクティショナー（仮称）や特定行為研修修了者の役割発揮等について、現場の看護職からその現状と問題点が挙げられました。

総会は、看護職として豊かな経験を持つ会員が集まる場であり、組織の活性化や成長を促すための重要な場です。今総会の会場になった幕張メッセは、全国各地から集まった看護職の熱気に満ちていました。代議員として総会に出席し、活発な意見交換を通じて、新しい視点や知識を得られることができ、貴重な経験を得る機会となりました。

今総会で一期 2 年の任期を終える^{たかはしひろえ}高橋弘枝会長の後任として、^{あきやまとま}秋山智弥氏が第 15 代会長に選出され、初の男性会長の誕生となりました。高橋前会長がコロナ後における実践的なリーダーシップを発揮されたように、医療経済や医療情報に強い秋山会長がもたらす看護の未来に期待し、看護界の発展を信じて、「新ビジョン」の実現に向け私自身も努力し成長していきたいと思いを新たにしました。代議員報告は、以上です。

文責：海南医療センター 前西有里子